



横浜市立永野小学校 学校だより

令和2年6月2日発行

永野

電話 843-8556

FAX 842-9143

e-mail

y3nagano@edu.city.yokohama.

スロースタートで学校再開

校長 福田 洋一

思えば2月29日夕刻、首相による学校の臨時休校要請を受けて、横浜市教育委員会の指示により3月3日(火)から始まった臨時休業(休校)。以来3か月にわたる休業がようやく終わり、段階的な学校再開が始まりました。一部全国紙には、6月前半は午前授業と書かれていましたがそれは誤報で、永野小は教育委員会の例示により、午前、午後の2部制として学級を二つに分け、午後も午後も同様のプログラムで行う決定をしました。最初の2週間は1校時を30分間として(通常は45分間)、当面すべての学年で1時間目は学活とし、担任が子どもたちとコミュニケーションを重ねながら、同時に注意深く子どもたちの様子を観察していきます。学習についても、課題として出された部分の補充指導から行います。まさにスロースタートです。最初の2週間は、午前、午後と毎日登校時刻は変わるものの、毎日学校に来ることは、子どもたちにとって嬉しいことであると同時に、登校リズムの再構築にも有益であると思います。2回目の課題配付日に校門で立っていた私にこう話しかけてきた子どもがいました。「校長先生、僕ね、最初は学校が休みになると聞いてラッキーと思ったんだ。でもね、だんだん退屈してきて、早く学校が始まってほしいんだ。」子どもの気持ちを代表した思いではなかったでしょうか。

メール配信や、ホームページでお知らせしているように、新型コロナウイルス感染防止対策については、学校がおかれた条件の中で、知恵を絞って準備をしています。また、目に見える準備のみならず、自分や周囲の感染リスクを下げ、自分を守る指導も発達段階に応じて行っています。分かりやすい部分で言えば、ソーシャルディスタンスについて、距離感もさることながら友達との身体接触をしない、できるだけ向かい合って話をしない、などという視点で指導します。マスクの着用も必須です。また、下校後の校舎内消毒作業も、現在の緊急受け入れ終了後同様にしっかり行います。このようにして、新型コロナウイルスと共存する社会生活の在り方を学校の中でも徐々に浸透させていきます。地域、保護者の皆様もご不安な点がありましたらご相談ください。学校も養護教諭、専任や学校カウンセラー等と連携しながら向き合わせていただきます。

また、長かった休業が子どもたちにどのような影響を及ぼしているのかについてもしっかりと見取りながら、子どもたちと丁寧に関わってまいります。そして何よりも大切にしたいのは、学習面です。確かに、家庭学習をお願いした部分も含め、例年より学習進度は大きく遅れていますが、進度回復のために、再開早々から学習ペースを速めるようなことはいたしません。3月からの積み残しも含め、学校での指導ができていない部分の補充、復習から始めます。

学校を再開し、各クラスで授業を行いながら、並行して緊急受け入れをすることは、正直並大抵のことではありません。それでも社会的要請に応じて、6月の前半も引き続き緊急受け入れを行います。限られたマンパワーで、ローテーションを組んで対応していきます。そして「早く学校が始まってほしいんだ。」とつぶやいた子どもの気持ちを裏切らない再開プログラムを進めてまいります。どうか、本校の方針をご理解いただきながら、ご家庭のご協力を心からお願いします。今日の学校はどうだったのか、お子さんと話題にしてください。今後も必要に応じて、メール配信やホームページで新たな情報を発信していきますので、そちらのほうもご確認ください。